

はあかんで、本気で取り組む気がないと指導できんよ」  
「まあそんなかたいこと言わんと教えて下さいよ」という会話から始まり、資料の取り方、組成表の組み方を教えていただいて初めて書いたのが「加古川の池沼植物」でした。以来、何回となく研究室にお邪魔してご指導をいただき、また調査にも同行させてもらったりして今では何とか一人立ちできるようになりました。これも一重に先生のお陰と深く感謝致しております。

先生はあの眼鏡の下の鋭い眼光で先を見通し、積極的に物事を処理されました。また、研究に対して厳しさをもっておられ教え子にもものぞまれましたが、弟子思いは人一倍で病床にあっても最後まで弟子の研究を心配しておられたと聞いて頭が下がる思いです。

先生もまだまだやりたい事が沢山あり心残りであったと推察しますが、私達もまだまだ教えていただかなくてはならぬ事が沢山あったのに「なぜこんなに早く」と思いますが今ではせんない事です。最後に今は亡き先生の生前の業績を讃え、先生のごめい福をお祈りして筆をおきます。

## 稲田又男常任理事逝く

シダ博士の稲田さんの訃報に接したとき、わが生物学会の大きな宝を失ったようであつくりした。つい先日、奥様をお連れしてのご散歩中のお元気なお姿をおみかけしたばかりというのに、これも、それも、人生とは申せ、哀しいことです。

先生は、ひょうひょうとした気宇壮大な大人風のお人柄、鼻にかかったお声で、おおらかに話かけられる静かなご性格は、私どもの相談役としてうってつけの方でした。

かつて、砥峯高原に、稲田植物研究所を開かれたときの、ご満悦ぶりをおもい出して、いまさらながら、稲田流の生き方の哲学の非凡さに心がうたれます。

今、幽明境を異にってしまったとはいえ、こせこせした風俗の世界から離れて、シダの世界の夢に遊んでおられるのではないのでしょうか。この世に遺された莫大な標本や資料は、後世の研究者への恵みとして、いつまでも「シダの稲田」として語り伝えられていくことでありましょう。

なお、稲田氏のご遺言により、生物学会へ研究奨励金の基金として金10万円を寄贈していただきました。全会員を代表して厚く御礼申しあげ、謹しんでご冥福を祈りあげます。

合掌

理事長 当 津 隆



在りし日の稲田氏